

株主・投資家のみなさまへ



## 第90期 経営報告書

2011年4月1日から2012年3月31日まで

Connectors for  
Photovoltaic Module

SMK株式会社

## 変化に 再チャレンジ

### ● SMK「企業理念」 ●

SMKは可能性の追求を通して  
総合的な高度技術により、  
情報社会の発展に寄与する。

### ● SMK「行動指針」 ●

1. 社会への貢献を考え、  
誇りと自信をもって行動する。
2. ユーザーの立場を考え、  
熱意と誠意をもって行動する。
3. 高い目標を考え、  
失敗を恐れぬ勇気をもって行動する。
4. 明るい社風づくりを考え、  
信頼と尊重をもって行動する。
5. 世界の中のSMKを考え、  
国際的視野をもって行動する。

### CONTENTS

トップメッセージ	1
連結財務ハイライト	2
事業部門別の概況（連結）	3
新製品ご紹介	5
トピックス	6
連結財務諸表（要旨）	7
コーポレートデータ	9
株式情報	10



代表取締役社長  
池田 靖光

代表取締役会長  
中村 哲也

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに、当社グループ第90期（2011年4月1日～2012年  
3月31日）の事業の概況、業績等につきましてご報告申し  
上げます。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援、  
ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

2012年6月

### 当期の概況

当期における世界経済は、欧州債務問題の深刻化に伴う欧米景気の減速、中国をはじめとする新興国の成長鈍化もあり、不透明な状況で推移しました。

日本経済も、東日本大震災の影響によるGDPの低下、タイ洪水被害による製造業のサプライチェーンへの影響に加えて、歴史的な円高の進行と海外経済の減速のために、引き続き厳しい状況となりました。

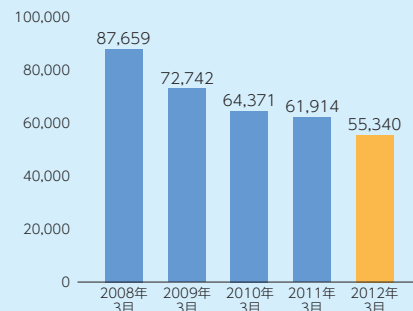
当電子部品業界におきましては、超円高により競争力が低下し、タイ洪水の影響を受ける中、スマートフォンの急速な普及による携帯電話向け部品や自動車向け部品などを中心に堅調でありましたが、薄型TVを筆頭とするデジタル家電向け部品については、国内の需要一巡と海外経済の低迷により低水準で推移いたしました。

このような状況の下、当社は積極的な新製品の投入と価格競争力の向上、営業力の強化などに努めてまいりましたが、当期における連結業績は前期比で減収減益となりました。

今後につきましては、通信、自動車の各分野への取り組みを基本として省資源・環境関連などの成長分野への機敏な対応と新市場の開拓を図り、顧客のニーズに即した新製品・新技術の開発、生産技術の高度化、効率的な販売体制の整備にも注力してまいります。また、コスト競争力の強化を推進し、業績の向上に全社一丸となって取り組んでいく所存であります。

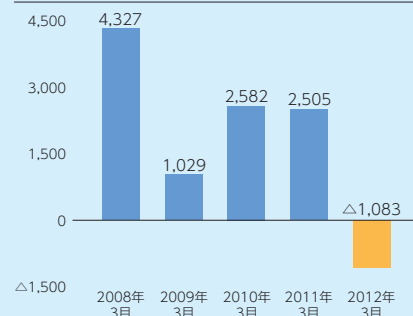
### 売上高

(単位：百万円)



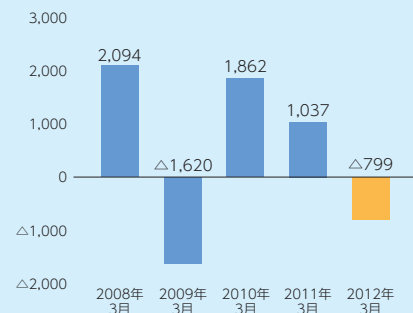
### 経常利益

(単位：百万円)



### 当期純利益

(単位：百万円)



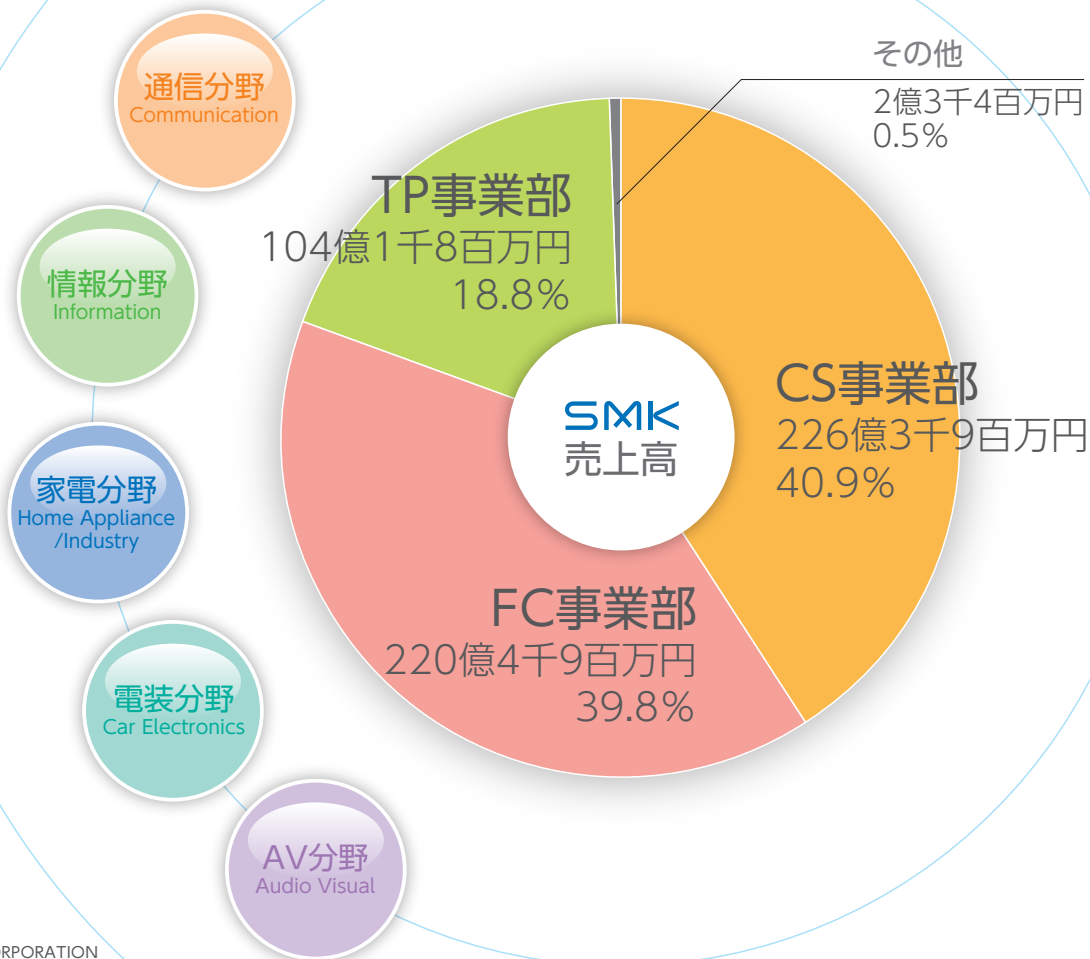
## 事業部門別の概況(連結)

Review of Segment

SMKが生産する数々の電子部品やコンポーネンツは、国内そして世界のエレクトロニクス業界で広く使用されています。その市場は「コミュニケーション」「インフォメーション」「ホームアプライアンス/インダストリー」「カーエレクトロニクス」「オーディオビジュアル」の5つに大別されます。

これら5つの分野で、つねに市場のニーズに応えた製品を開発するために、商品企画から設計、量産までを担当するのが、「CS (Connection System) 事業部」「FC (Functional Components) 事業部」「TP (Touch Panel) 事業部」の3つの事業部と、主に新規分野等の製品の設計、開発を担当する「開発センター」です。

ここでは、3つの事業部の事業部門別の概況をご報告します。



## CS事業部 | Connection System Division

### 【主要品目】

- 同軸コネクタ
- FPCコネクタ
- 基板対基板コネクタ
- ジャック



上半期は震災の影響で部品需要が制限され低調な結果でしたが、下半期はセット生産の回復と共にコネクタ需要も急増し、前年を上回るまで回復いたしました。

市況好調なスマートフォン・タブレットPC向けが牽引し、車載用コネクタが減税効果で堅調であったこと、TVゲーム・太陽光発電モジュール向けの新製品採用が大きく寄与いたしました。

為替変動・欧州債務問題・米国景気減速懸念など未だ不透明な環境下ですが、主力の情報通信始め、デジタル家電・カーエレクトロニクス・新エネルギー関連など伸びる市場に向けた新製品開発を進めています。

## FC事業部 | Functional Components Division

### 【主要品目】

- スイッチ
- Bluetooth® ユニット
- リモコン
- カメラモジュール



上半期は携帯電話向けアンテナやアクセサリ製品が好調でしたが、薄型TVを中心としたデジタル家電の急激な不振や、当社部品採用のスマートフォンメーカーのシェアダウンにより販売は低迷いたしました。

下半期に入りエアコンや住宅設備関連のリモコンが立ち上がり、セットトップボックス向けも持ち直しましたが、上半期マイナス要因の影響が大きく、全体としては低調でした。

今後は、省エネで注目される住宅設備・エアコン関連やセットトップボックスを中心とした映像関連および車載・環境関連にも注力して事業の拡大を図ってまいります。

## TP事業部 | Touch Panel Division

### 【主要品目】

- 抵抗感圧式タッチパネル
- 静電容量式タッチパネル
- 光学式タッチパネル



タッチパネル事業全体の販売は、前期比で大幅増収となりました。

車載市場向けは、カーナビゲーション用タッチパネルが期全体を通じ、国内外からの旺盛な引き合いにより高水準の売上で推移いたしました。ATM市場向けも特に中国市場向け需要の拡大により順調に売上を伸ばしました。携帯電話市場向けは、スマートフォンへの需要が高まっておりますが、競争も激化しており、年後半は伸長が鈍化しました。

今後は、需要が増えている車載市場、携帯電話市場向けに静電容量式タッチパネルの販売拡大を目指してまいります。

上記以外にも「その他」として2億3千4百万円の売上高があり、開発センターの売上高は「その他」に含まれます。

## 新製品ご紹介

New Product

### New Product 太陽電池モジュール用コネクタ (PVシリーズ)

近年、太陽光発電システム市場が注目されており、世界的に需要が拡大しております。

本製品は、太陽光モジュール間をケーブルで接続する中継コネクタで、当社独自の防水構造で性能も優れており、ターミナルも多点接触構造で安定した接触性能を持っている



主な用途：太陽光発電システム

ことで好評を得ております。

小型化品、分岐タイプなどレパートリー拡充で採用案件が増えており、今後も更に積極的な拡販活動を展開してまいります。

### New Product 50W/20W対応ACアダプタ (EPMシリーズ)

近年、環境面への配慮のため各国でエネルギー効率規制が法制化されています。これに対応すべく、このほど50W/20W対応ACアダプタ (EPMシリーズ) を開発いたしました。



主な用途：  
プリンター、スキャナーなど

本製品は独自の方式により低ノイズ・低損失を実現し、各国の安全規格やEMC規格に適合し、起動回路も工夫して大電流を必要とする機器 (プリンター、スキャナーなど) へ安定した電源供給を行います。

### New Product ITO代替材料使用 タッチパネル

タッチパネルには通常、希少金属であるインジウムにて形成された透明導電電極(ITO:酸化インジウム錫)が使用されておりますが、当社では、希少金属使用量



削減を目的として、2種類 主な用途：事務機、FA機器などのITO代替材料 (カーボンナノチューブ、および有機導電ポリマー) を使用したタッチパネルを開発いたしました。特にカーボンナノチューブは耐久性に優れているため、様々な用途への展開が期待できる商品です。

### New Product Bluetooth® Low Energy 対応モジュール (シングルモード)

低消費電力で無線通信を可能とするBluetooth® Low Energyシングルモードに対応した通信モジュールです。

Bluetooth® Version 4.0 で導入されたBluetooth® Low Energy (BLE) 技術は、従来のBluetooth® 技術と比較して低消費電力であることが特徴です。近年様々な分野で、無線通信技術を搭載する需要が増えており、その中でより低消費電力で無線通信を可能とするBLE技術は、今後普及していくことが見込まれます。



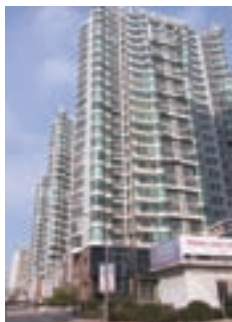
主な用途：リモコン、携帯電話周辺機器、セキュリティ機器、ヘルスケア製品など

## トピックス

Topics

### 01 | 中華圏への事業展開

当社では2011年5月の中国西安市への販売オフィス開設に続いて、2012年3月に山東省青島市に青島オフィスを開設し、業務を開始いたしました。当社は中国市場向けの売上拡大を目指して販売拠点の拡充に取り組んでおり、本オフィスの開設はデジタル家電、携帯電話などの現地得意先への販売強化とサポートを目指すものです。



青島オフィス入居ビル外観

また、2011年10月には当社の子会社であるSMK Electronics (H.K.) Ltd.が製造委託をしていた東莞の生産拠点を当社の子会社に転換いたしました。当社では今後も中華圏での生産・販売体制をいっそう強化し、得意先に対しよりきめ細やかなサービスを提供してまいります。



### 02 | 展示会情報

#### FPD International2011

2011年10月26日～28日 パシフィコ横浜

本展示会はフラットパネルディスプレイと製造装置、部品、材料の総合展示会です。今回SMKでは、6種類のデモ機を出展いたしました。本展示会開催前にプレスリリースしたITO代替フィルムを使用したタッチパネル、手袋でも操作可能な静電容量式タッチパネルが特に注目を集め、3日間で1,445名の方にSMKブースへ足を運んでいただきました。



#### 国際カーエレクトロニクス技術展

2012年1月18日～20日 東京ビッグサイト

本展示会は自動車技術専門の展示会であり、第4回となる今回は、車載用タッチパネル、カメラモジュール等のデモを



中心に展示を行いました。SMKでは今後も安心・安全な運転、車室内の快適な空間づくりに貢献すべく、カーエレクトロニクス市場へ取り組んでまいります。

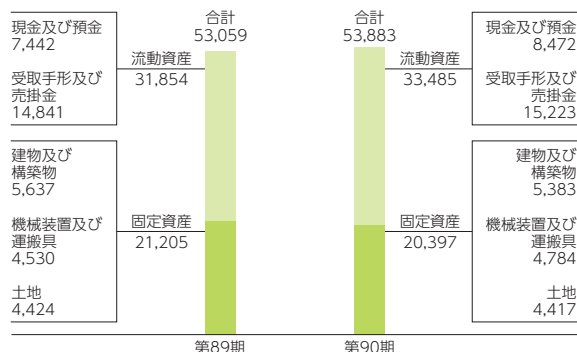
SMKでは、各展示会でご披露しました技術を結集し、2012年6月6日～8日の3日間、お取引先を対象とする当社の技術展示会「SMK TEXPO2012」（東京・品川）を開催いたしました。今回は「人、環境、未来へスマートナビゲート」をテーマコピーとして、環境に配慮した製品技術、世界のトップを走る小型化技術等をアピールすることができました。

# 連結財務諸表 (要旨)

Consolidated Financial Statements

## 資産の部

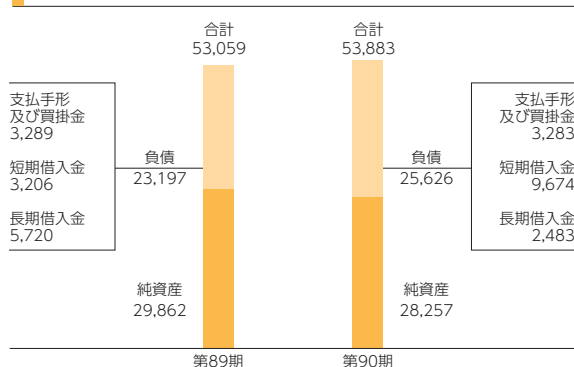
(単位：百万円)



総資産は、89期末に比べて1.6%増加いたしました。流動資産は、89期末に比べて5.1%増加、固定資産は、89期末に比べて3.8%減少いたしました。これは、たな卸資産、投資有価証券および前払年金費用の減少などによるものです。

## 負債純資産の部

(単位：百万円)



負債合計は、89期末に比べて10.5%増加し、純資産合計は、89期末に比べて5.4%減少いたしました。これは、借入金の増加、利益剰余金の減少などによるものです。

## 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	第90期 2012年3月31日	第89期 2011年3月31日
<b>資産の部</b>		
流動資産	33,485	31,854
固定資産	20,397	21,205
有形固定資産	16,199	16,245
無形固定資産	390	605
投資その他の資産	3,808	4,353
<b>資産合計</b>	<b>53,883</b>	<b>53,059</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	22,556	16,761
固定負債	3,069	6,435
<b>負債合計</b>	<b>25,626</b>	<b>23,197</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	31,572	32,917
資本金	7,996	7,996
資本剰余金	12,345	12,352
利益剰余金	14,784	15,876
自己株式	△ 3,554	△ 3,308
その他の包括利益累計額	△ 3,352	△ 3,182
新株予約権	32	123
少数株主持分	5	4
<b>純資産合計</b>	<b>28,257</b>	<b>29,862</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>53,883</b>	<b>53,059</b>



## 連結損益計算書

(単位：百万円)

	第90期	第89期
	自2011年4月1日 至2012年3月31日	自2010年4月1日 至2011年3月31日
売上高	55,340	61,914
売上原価	48,564	51,345
売上総利益	6,776	10,568
販売費及び一般管理費	7,942	7,814
営業利益又は営業損失(△)	△ 1,166	2,754
営業外収益	890	1,158
① 営業外費用	807	1,407
経常利益又は経常損失(△)	△ 1,083	2,505
② 特別利益	280	43
特別損失	173	731
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△)	△ 977	1,817
法人税等	△ 178	778
少数株主損益調整前当期純利益又は 少数株主損益調整前当期純損失(△)	△ 798	1,038
少数株主利益	0	0
当期純利益又は当期純損失(△)	△ 799	1,037

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	第90期	第89期
	自2011年4月1日 至2012年3月31日	自2010年4月1日 至2011年3月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	2,001	6,230
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 3,764	△ 4,001
財務活動による キャッシュ・フロー	2,686	△ 3,347
現金及び 現金同等物に係る換算差額	84	△ 247
現金及び 現金同等物の増減額(△は減少)	1,006	△ 1,366
現金及び現金同等物の期首残高	7,382	8,749
現金及び現金同等物の期末残高	8,389	7,382

## 連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額			新株 予約権	少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証 券評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の包括 利益累計額合計			
当期首残高	7,996	12,352	15,876	△ 3,308	32,917	266	△ 3,449	△ 3,182	123	4	29,862
当期変動額											
剰余金の配当			△ 291		△ 291						△ 291
当期純損失(△)			△ 799		△ 799						△ 799
自己株式の取得				△ 263	△ 263						△ 263
自己株式の処分		△ 7		16	9						9
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)						△ 119	△ 50	△ 169	△ 90	0	△ 259
当期変動額合計	—	△ 7	△ 1,091	△ 246	△ 1,345	△ 119	△ 50	△ 169	△ 90	0	△ 1,604
当期末残高	7,996	12,345	14,784	△ 3,554	31,572	147	△ 3,499	△ 3,352	32	5	28,257

### POINT ① 営業外費用

円高の影響を受け、為替差損2億4千6百万円を計上いたしました。

### POINT ② 特別利益

投資有価証券売却却益と新株予約権戻入益を計上いたしました。

### POINT ③ 1株当たり配当金

期末配当金を1株当たり6円とさせていただきます。

# コーポレートデータ (2012年3月31日現在)

Corporate Data

## 会社概要

商号	SMK株式会社
英文社名	SMK Corporation
設立	1929年(昭和4年)1月15日
資本金	7,996,828,021円
従業員数(SMKグループ)	8,020名
本社	〒142-8511 東京都品川区戸越6丁目5番5号 TEL (03)3785-1111(大代表) FAX (03)3785-1878 ホームページアドレス <a href="http://www.smk.co.jp/">http://www.smk.co.jp/</a>

## 事業所一覧

ゲートシティオフィス	福岡営業所
大阪支店	富山事業所・富山テクノロジーセンター
名古屋支店	ひたち事業所
茨城営業所	大和事業所
北陸営業所	やまと流通センター

## 海外拠点

台湾・香港・中国・シンガポール・フィリピン・韓国・マレーシア・ベルギー・ドイツ・イギリス・フランス・ハンガリー・アメリカ・メキシコ

## 役員一覧 (2012年6月22日現在)

### 取締役および監査役

代表取締役会長	中村 哲也
代表取締役社長	池田 靖光
取締役副社長	櫻井 慶雄
取締役常務執行役員	角 芳幸
取締役	棚橋 祐治
常勤監査役	池田 彰孝
監査役	山田 一
監査役	杉原 幸一郎
監査役	中島 成

### 執行役員

常務執行役員	ポール・エバンス
常務執行役員	若林 幹雄
常務執行役員	大垣 幸平
執行役員	松本 秀夫
執行役員	磯田 勉
執行役員	宮川 宏
執行役員	柳 茂哉
執行役員	石橋 竹己
執行役員	関 晴孝

### 当社ホームページのご案内

当社ホームページでは最新のニュースリリース、IR情報、製品情報、CSR・環境活動への取り組みなどご覧いただけます。

URL <http://www.smk.co.jp/>

SMK

検索

### ● トップページ



### ● IR情報トップページ



# 株式情報

(2012年3月31日現在)

Stock Information

## 株式の状況

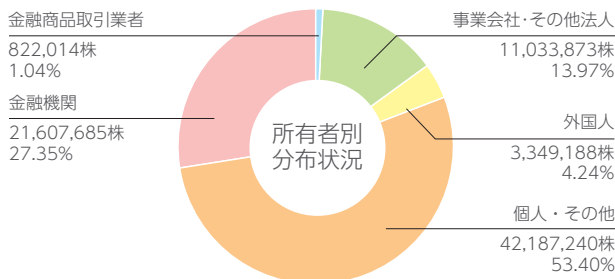
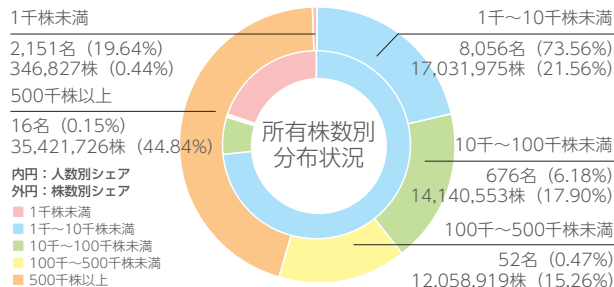
発行可能株式総数	195,961,274株
発行済株式の総数	79,000,000株
株主数	10,951名
大株主 (上位10名)	

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本生命保険相互会社	3,601	5.00
株式会社みずほコーポレート銀行	3,562	4.94
大日本印刷株式会社	3,200	4.44
SMK協力業者持株会	2,582	3.58
株式会社三菱東京UFJ銀行	2,508	3.48
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	2,096	2.91
三菱UFJ信託銀行株式会社	1,937	2.68
SMK社員持株会	1,738	2.41
財団法人昭和池田記念財団	1,500	2.08
池田 彰孝	1,466	2.03

(注) 当社は自己株式6,985千株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しており、また、上記持株比率は自己株式を控除して計算しております。

## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	6月開催
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
中間配当金 受領株主確定日	9月30日
定時株主総会の基準日	3月31日 上記のほか必要があるときは、 あらかじめ公告して定めます。
公告掲載URL	<a href="http://www.smk.co.jp/">http://www.smk.co.jp/</a>
上場取引所	東京証券取引所 (市場第一部)
証券コード	6798
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区 東砂7丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料) ホームページアドレス <a href="http://www.tr.mufg.jp/daikou/">http://www.tr.mufg.jp/daikou/</a>



## 株式事務のお手続き

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関  
三菱UFJ信託銀行株式会社

### 同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号  
TEL：0120-232-711(通話料無料)  
ホームページアドレス <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

### 株式に関するお問合せ先・お手続き先

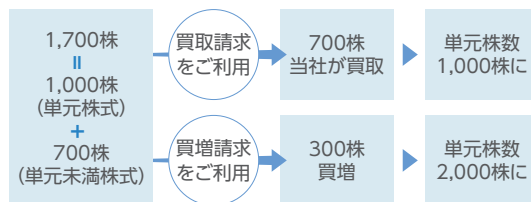
株式に関するお問合せ先および株主様の住所変更、**単元未満株式の買増・買取請求、特別口座から証券会社の口座へのお振替、配当金のお振込**等のお手続き窓口は、次のとおりとなります。

1. 証券会社の口座で株式をご所有の株主様：  
株主様が口座を開設されている証券会社の本支店
  2. 特別口座で株式をご所有の株主様：  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
(上記「株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関」の連絡先をご参照ください。)
- なお、未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

## 単元未満株式(1,000株未満の株式)の買増・買取請求のご案内

当社では、「単元未満株式の買取請求制度」および「単元未満株式の買増請求制度」を採用しておりますので、ぜひお手続きくださいますようお願い申し上げます。

### ● 買取・買増請求制度の例（1,700株ご所有の場合）



表紙に掲載されている製品は、太陽電池モジュール用コネクタです。クリーンエネルギーとして注目される太陽光発電システムに使用されています。

## SMK株式会社

〒142-8511 東京都品川区戸越6丁目5番5号  
TEL (03)3785-1111(大代表) FAX (03)3785-1878  
ホームページアドレス <http://www.smk.co.jp/>



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

